

—未来をひらく—

竜爪山 九条の会

りゅうそうざん
きゅうじょうのかい
会報 2016年3月発行 通巻32号
発行／竜爪山九条の会・事務局
〒420-0812 静岡市葵区古庄3-19-34 五井卓方
TEL・FAX 054-264-4918
E-mail ryusouzan9@gmail.com
URL <http://ryusou9.jimdo.com>

戦争法廃止2000万人署名 取り組み進む

戦争法廃止！戦争させない・9条壊すな！野党は共闘！いのちを守る静岡大集会（戦争法廃止オールしずおかアクション主催）が2月13日、駿府城公園で開かれ、500人を超える市民が参加しました。

思いを伝えるスピーチでは、一人4分で、各方面から活動の報告や、2000万人署名に取り組む決意が語られました。

集会後は、七間町、青葉通り、呉服町とパレードをおこない、戦争法廃止を訴えました。店の前で手を振る店員の姿もみられました。

竜爪山九条の会では、戦争法廃止2000万人署名を、多くの人に知ってもらおうと、3月6日12時から、伝馬町の109前で宣伝・署名行動をおこない、13人が参加しました。道行く人たちに、竜爪山九条の会オリジナルのチラシを配布しながら、「あなたも、2000万人の一人に加わってください」と、署名を呼びかけました。

通り過ぎてから戻ってくる人。おっかなびっくり近づいてきて、説明を聞いて、にっこり署名する高校生。友だちと二人で署名する20代の女性など、1時間で101筆の署名が集まりました。

署名は3月10日現在420筆集まっています。4月24日まで続けます。更にもう一人でも多くの人にお願ひしましょう。



↑ 4分スピーチをする竜爪山九条の会・世話人の北野さん

9周年のつどい、真勝寺さんとの共催で、 本堂いっぱい参加者

2月11日(木・祝)。竜爪山九条の会ができて9年。奇しくも発足と同じ2月11日、「9周年のつどい」が開かれました。今回は、歌う僧侶“鈴木君代さん”を京都からお招きしてのライブ&トーク。天気も良く、会場の真勝寺本堂は250人を超える参加者で、埋め尽くされました。

憲法の問題、平和の問題から、原発、沖縄、東日本大震災に至るまで、鈴木君代さんの、心にしみいる話しに、涙を流して聴き入る方もおられました。鈴木君代さんは、ひとりひとりの「いのち」の意味について語りかけ、他の人に犠牲を強いて得られる「しあわせ」は、ほんとうの「しあわせ」ではないと話されました。そして、反対の考え方の人たちとも、「対話」を続けていくことの大切さを訴えられました。

「鈴木君代ライブ&トーク」をYouTubeで聞くことができます。(音声のみ) 竜爪山九条の会のホームページにアクセスしてください。




←赤い和ろうそくの灯りがともるご本尊の前、袈裟姿の鈴木君代さん。

そして、軽妙で時にほろりとさせられるトーク&ライブを堪能する真勝寺本堂いっぱいの参加者。

音響(プロの技術者による)も素晴らしいとの感想もありました。

アンケートに回答された方が59人。感想も書かれた42人の中から10人の方の感想を、3~4ページに掲載させていただきます。

とにかく感動でした。副住職さんのお話も、君代さんのお話も心に残るお話でした。あまりお寺等好きではなかった私も、こんなお寺さんもあるんだと改めて、自分の心のせまさにびっくりです。子供の頃、祖母に「親鸞」という映画を観に連れて行ってもらった事があり、とても感動したのを改めて思い出しています。私もこれからも命を守る活動を、私の出来る事で続けていきたいと思います。「皆違って皆いい!」をモットーに。
(70代・女性)



鈴木君代 ライブ&トーク アンケート感想

とても内容の濃い、良い話を聞いて感動しました。平和を願う心は、だれでももっているという事で、話して、9条守り、原発いらぬという事を広めていきたいです。

(50歳未満・男性)


すばらしく、すばらしい、ライブ&トークに感動しました。『♪一本の鉛筆』『♪金子みすゞさんの歌』、『♪ふるさと』などなど、全部心にしみました。わかりやすいお話で楽しかった。となりの席のおじいさんが泣いていました。又いつかお話をきく機会があればと思います。

(80歳以上・女性)

感動しました。泣きました。母は、72年前病気でしたが、私を産んだ後、1年後一度も私を抱けずに死にました。娘は、母を殺して産まれてきたと嘆く私に「おばあちゃんが産んで下さったから幸せな私がいる」と、安心させてくれました。命をつなぐってすごいです。
(70代・女性)

力強い反戦の歌が寺中ひびいて、元気をいただきました。これからも、もっともっと、人を憎まず、大切にしていきたいと、初心に戻った気分です。楽しい時間をありがとうございました。トークが魅力的ですばらしかったです。
(60代・女性)

沖縄のお話に感動しました。
(60代・女性)



鈴木君代 ライブ&トーク アンケート感想

トークも歌も、ともに感動した。これまでいろんな平和集会で学者の講師の話に眠くなったが、今日は、90分が短く感じられた。拡声器でスピーチをする方法は、市民に共感呼びおこさないが、音楽や歌のメッセージは訴える力をもつことがわかった。
(60代・男性)

泣けました。泣きました。歌のもつ偉大な力に感動した。歌で平和を伝えること、すばらしいと思った。『♪ふるさと』をうたう時。今日の鈴木君代様のライブを思い、一人でも多くの人に感動を伝えたい。
(70代・女性)

軍国主義の足音がこれほど身近にせまっているのに、日本国民はどうして危機感が無いのか。他国よりましと思っているのか。生活に余裕が無いので無関心になっているのか。日本人よ、しっかりしろ、目をさませ。取り返しつかない事になるぞ！

(60代・男性)

ハーモニカのおじさんが一緒にいてくれた気がしましたね。今日、参加させて頂く事を少し考えてしまっていたのですが、（仕事で疲れて精神的にもきつい毎日だったので…）、来れて本当に本当に良かったです。

副住職のお話、とても良かったです。涙が自然とこぼれてしまい止まらなくなりました。ありがとうございました。

(50歳未満・女性)

9周年のつどいに参加して思うこと

安東2丁目 原田 攝生

私は、日本バプテスト静岡キリスト教会で牧師をしています。

竜爪山九条の会9周年のつどいに、歌う僧侶・鈴木君代さんのライブ&トークが行われること、「安保法制（戦争法）廃止、兵士も武器もいらない、いのちと平和の大切さをみつめる」という主題を見て、是非参加したいと思いました。

亀爪山九条の会代表のご挨拶、真勝寺副住職のお言葉を聞き、戦争反対、武器を用いないで平和に貢献するため、憲法を守ろうという同じ土俵にいますと感じました。

鈴木君代さんが歌われた「兵戈無用^{ひょうがむよう}」、兵士も武器もいない、殺さない、殺されない、殺させない、命は皆平等という仏教の教えは、聖書の、「殺すな」、「剣を取る者は皆、剣で滅びる」、という教えと通じ、憲法の示す基本的人権や平和主義を生み出した大切な思想哲学だと思えます。

憲法を守り、基本的人権を体質にし、武力によらず相互理解を深めることによって国際平和に貢献する国としてこれからも歩み続けられるよう、皆で手をつなぎ、声を上げていきたいと思えます。

憲法を守り、基本的人権を大切にし、武力によらない国際平和を希求することは、明治以降諸外国との戦争に明け暮れた時代を反省し、いかに生きるべきかに思いをいたした日本国民が、政治や経済の理由で戦争に突き進まないように、ときの政府にその意志を尊重するよう規定した、いわば政府を縛るものです。

自公政権はこれをアメリカから押しつけられたものといって、自主憲法制定を唱えています。それは政府の勝手な解釈です。そもそも、憲法は国民が政府に対し、大切に守るよう押しつけているものなのです。

安倍首相のいう「積極的平和主義」も、抑圧され、貧しく小さくされている弱い立場の人々のために行動することが、本来の積極的平和主義です。武器を持って戦場に赴くのを「積極的平和主義」とはいいません。

自公政権により、貧富の格差拡大、非正規雇用の拡大、消費税増税は福祉目的であったはずなのに、利益を得たのは、法人税が引き下げられた大企業だけ、そして、改憲によって戦争出来る国、戦争する国になろうとしています。まさに、現行の憲法の規定を無視し、本来の積極的平和主義と真逆の政策を推進しています。

このような横暴非道を許してはいけません。選挙を通じて、法廷闘争その他あらゆる手段を通して、特に私たちに与えられている日本国憲法という宝物に力を発揮してもらおうべく、知恵を出し合い、力を寄せ合いましょう。



マスメディアの報道の自由 その現状

瀬名1丁目 片野 修治

日本の言論・報道の自由度

先頃、パリに本部を置く「国境なき記者団※」が、2015年世界180ヶ国の言論・報道の自由度を発表した。この組織は国（政府）と報道機関の関係を民主主義という観点で各国の自由度を数量化し報告している。その指標は①各国のメディアに与えられる報道の自由度②報道の自由度に対する政府の支配度で、自由に対する侵害度が低い程指数が小さくなる。すなわち、言論・報道の自由度が大きい程、幸福な国民といえる。

中国、北朝鮮はやはりという結果だが、日本は臨戦体制の韓国とほぼ同じの自由度のなさは、いかなる理由であろうか。日本のここ数年のランキングを見ると、原発事故後の報道統制や特定秘密保護法の制定後、年々指標を下げ続けており、政権交代後、急速に自由が失われている。（表1・2参照）

※「国境なき記者団」はジャーナリストによる非政府組織。1985年パリで設立。世界中で拘禁されたジャーナリストの救出、死亡した場合は家族の支援、各国のメディア規制の動きへの監視・警告を主な活動としている。2002年以降、『世界報道自由ランキング』（Worldwide press freedom index）を毎年発行している。

↓表2 日本の最近の報道の自由度ランキング

年	2008年	2009年	2010年	2012年	2013年	2014年	2015年
ランキング	29位	17位	11位	22位	53位	59位	61位
指数	6.50	3.25	2.50	-1.00※	25.17	26.02	26.95

※2012年は、2011-2012年として発表され、2012年の数値は負の数になっている。

↓表1

世界報道自由ランキング 2015年（抜粋）		
順位	国	指数
1	フィンランド	7.52
2	ノルウェー	7.75
3	デンマーク	8.24
8	カナダ	10.99
12	ドイツ	11.47
34	イギリス	20
38	フランス	21.15
49	アメリカ	24.41
60	韓国	26.55
61	日本	26.95
152	ロシア	44.97
176	中国	73.55
179	北朝鮮	83.25

日本の現状、欧州からの指摘される問題点

①記者クラブ制度（日本独自の制度。大手メディア以外の記者を受け入れられない排他性と、官僚により加工されて出される情報提供を受けるだけの横並び意識が問題視されている。）②クロスオーナーシップ（ヨーロッパの民主社会のメディアのあり方として、本来新聞とテレビは互いに監視し合う事が望ましく、新聞とテレビの経営の一体化であるクロスオーナーシップ制度は多くの国で禁止されているが、日本はその概念すら一般的ではない。）

鳩山政権時、原口総務大臣が外国人記者クラブで、クロスオーナーシップ禁止の法案を検討していると語ったが、その後のマスメディアの民主党政権攻撃は鳩山、小沢、菅、各氏に対しすさまじいものがあったのは、皆様ご承知の通り。結果、民主党政権崩壊に至った。

我々一般国民は、毎日マスメディアから必要な情報を得て判断しているが、その情報がゆがめられている事に気づかない。メディアに登場するいわゆる識者の中で、心ある人々が次々姿を消し、政権寄りの学者、文化人達が国民世論をコントロールしている。

テレビの黎明期、アメリカCIA代理人としてのコードネーム「ポダム」を持つ読売新聞社主の正力松太郎氏が、CIAの援助により日本最初の民放テレビを立ち上げ、その隠されたコンセプトが、日本人にはスポーツ（巨人軍に代表される）と芸能が必要で、民主社会を維持発展させる為の情報には必要ないといった、占領軍の意志を具現化したツールがテレビであり、後に大宅壮一氏、松本清張氏が一億総白痴化と嘆いた現象が、今ではなんの違和感もなく大衆に受け入れられている。

小泉元首相が「原発で官僚にだまされた」とコメントしているが、首相すらだます人々がいわんや大衆をや。NHK会長舛井氏が「政府が右と言うものを、左と言う訳にはいかない」と語ったのが、正に現下のマスメディアのあり方を示している。

一般世論として安保条約で守ってもらっているから、米国の戦争のヘルパーはやむをえないとする、あるいは福祉切り捨ての陰でGDP 1%の4.6兆円から、5兆円を超えた軍事費は報道しないタブー。

我々日本国民は民主的な憲法の下で、初めて国民として幸福の追求や平和な生活ができるはずだが、その為には国境なき記者団の指摘を、自分自身の問題として真摯に受けとめるべきではないだろうか。



一人のアメリカ人が
米軍への“オモイヤリ
ヨサン”の疑問に挑む
ドキュメンタリー映画
『ザ・思いやり』
カラー／88分
監督・編集
リラン・バクレー

日時 **3月26日(土)** 1回目 13時開場 13:30上映
2回目 15時開場 15:30上映

会場 **ラベック静岡** 2階 多目的ホール
(静岡市葵区本通7丁目11-9) 本通8丁目バス停下車

入場料 **700円** (当日お支払いください)
主催 『ザ・思いやり』上映のつどい実行委員会
連絡先 松原090-2688-7284 榛葉090-2572-5007

知ッテ
イマスカ?

日本の税金が在日米軍のために使われていることを
在日米軍家族のための住宅、小・中学校、教会、銀行、ゴルフ
場、マクドナルドなどの施設に税金が使われていることを
電気、水道、ガス料金は使い放題、遊びでも有料道路料金がす
べてタダだということを
米兵による凶悪・暴行事件の賠償金にも使われていることを
米兵一人当たり年間1500万円という膨大な額、6兆円を超える
私たちの税金がすでに使われていることを

編
集
後
記

「正しい歴史と作られた歴史を、どうやって見極めたらいいのでしょうか。」
この問いに、発会講演の講師、小和田哲男先生が作家・永井路子さんの言葉を引用されて、答えられた。
「私(永井)は、書かれている史料の半分しか信用しません。大本営発表を信じません。大本営発表を信じ込まされてきたから、公の書かれているものは、あまり信用しないんですよ。」というもの。あの発会講演以来、歴史を情報という言葉に置き換えて考えるようになりました。
昨年八月の発行から7か月ぶり、会報32号をお届けします。ご意見、感想、提言などなど、ごしごしお寄せ下さい。お待ちしております。
(寺井)